フォレストニュース

植林が地球を救う 平成26年(2014)2月10日

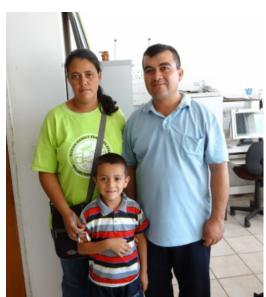
> No. 74 発行 高津啓洋

伊達さん・ビクトルさん 2人は飛行機でア スンシオンから定

記念である手入れ開始 オリンポ市に。オ

1月23日伊達勝見さんが日本を レダ基地まで向かいました。 出発し、パラグアイの新人担当者 レダでは中田実所長らから暖か ビクトルさんと、植樹地のレダにく迎えられました。 到着しました。伊達さんは、日本 て多くの技術を学んでの出発とな りました。

また、ビクトルさんは、出発前 に、夫人と息子さんが事務所を訪 問しました。(下写真)



期便でレダ近くの リンポからは車で

記念植樹地もちょっと不在した の造園技師から造園の現場に入っ間に、多くが雑草とつる草に覆わ れるという状況で、さっそく整備 を開始しました。



次はポット苗づくりから

植樹拡大は、ポット苗づくりと

植樹地の整備が急務です。植樹地 は、元々大きな自然林が生えてい たところでしたが、牧場地の為に すべての木々が伐採されたところ です。その後洪水と、度重なる焼 畑の為に荒れ果てた地となってい るところがほとんどです。

ポット苗は、ニーム、マンゴー、 アセロラ、アルガロボと実験的に 種を植えました。右の写真はさっ そく芽を出したマンゴーの苗です。

ニームの森は、着実に成長を続 けています。2月1日の写真ですが、宅の庭に植えたりして、大変に喜 ニームの実もたくさんついていまばれています。 す。今年のカレンダーもニームの 森がメインになっていました。40 度の暑さを忘れさせる並木に



の実はニームの種です。 ポット苗の中でも成長が 早く、暑さに強く、比較 的乾燥にも強いので、周

辺のインディヘナの人たちも、自

下の赤い花をつけた木は、チバ トです。元気に花を咲かせていま す。和名:鳳凰木(ほうおう

